

# 技術者として社会人としての成長 (若手職員のレポート)

株式会社東京設計事務所／関西支社／施設グループ／土木チーム 河野俊樹



## 1. はじめに

私は、入社するまでコンサルタントというものがどういうものか、正確には把握していませんでした。

設計図を書いていくのだらうという漠然とした知識しかないまま入社し、仕事をしていくうえで、自分が考えていたものは、ほんの一部でしかないことを知りました。

今回は、そんな一部しか知らなかった私が、入社してからどのような仕事をしてきたか、またどう感じたかを紹介したいと思います。

## 2. 入社してからの仕事

### (1) 水理計算

初めて行った業務は下水処理場の水処理施設に関する水理計算でした。

下水処理場では、流入した汚水を処理して処理水を、海や川に放流します。

水理計算は、吐き出し先である海や川の水位に合わせて、施設の高さやポンプの揚程を決めるための計算です。

最初、水理計算は水の流れに沿って上流から下流に向けて計算を行うものだと思っていましたが、実際は異なり放流先から上流に向かって計算をしていきます。

私は、水処理施設をほとんど知らない状態でしたので、この時初めて水の流れや水処理施設の仕組みを知ることができました。

最初の仕事で全体的なことがわかる水理計算を行うことは、水処理施設全体を理解するうえで、とても効果的だと感じました。

この業務を行う際、数式やそもそもの施設がわかっていないため、先輩たちに何度も同じようなことを質問させていただき、先輩たちには今でも感謝しています。

そのおかげもあって、今までいくつかの水理計算を手掛けており、この時に学んだ知識をフルに使って業務を行っています。

当初は、一つの大きな業務の中の小さなパーツ部分、しかも、そのお手伝い程度しかできなかったものが今では大部分を自分で行うことが出来るようになりました。

どんな仕事であっても、将来の業務では必ず役に立つ

ため、分からないことは何度でも理解するまで先輩に聞くことが大切だと学びました。

### (2) BIM/CIM

入社一年目の一番大きな仕事は、BIM/CIM業務における下水処理場内にある全ての施設の3Dモデル化でした。

この業務は、設計済みの2次元図面に基づいて3Dモデル化を行い、立体的に見える化するものです。

作る理由としては、お客様に視覚的によりわかりやすいものを提示し、合意形成の円滑化を図るためや設計ミスや手戻りの防止、施工手順の明確化による安全性の向上などです。

この技術の進歩は速く、今までの経験だけではとても太刀打ちできないことから、陳腐化の速いこの技術を日々学び続けることで習得していきました。

今までの業務は、上に先輩がついてくれて、より良い成果品にするためのアドバイスや指示をいただくことができ、ミスを恐れることなくやっていくことができました。

しかし、BIM/CIM業務では、自分でミスを発見しなければならず、小さなミスも許されないという気持ちが強くなり、とてもプレッシャーに感じました。

この状況を打破するため、3DCADを学ぶための社外講習会に参加したり、サポートセンターにしつこく連絡を取ったりして、BIM/CIMの知識の蓄積とスキルアップを図りました。

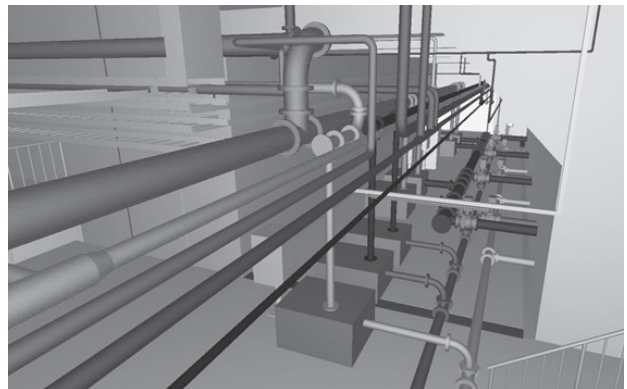


図-1 3Dモデル

初めての一人での学習だったため、3DCADについては今でも勉強しているので社内では自分が一番できると自信をもって言える技術となっています。

### (3) スtockマネジメント計画

浄化センターやポンプ場、マンホールポンプ場などを初めて詳しく見るようになった業務です。

今までは計算や図面作成など実施系の仕事ばかりしてきましたが、初めての計画系の業務となりました。

この業務は、市が保有している下水道施設にどのような資産（機械設備など）があるかを調べ、どの程度劣化しているかを判定し、市の財政に合わせて効率的に改築や長寿命化ができるように提案していく業務です。

下水道事業の進捗や保有している施設数、建設後の経過年数など、自治体の抱える様々な特性によってストックマネジメントの方向性が異なることを実感しました。

また、建築や機械などの他職種と多く関わることにより、自分の仕事（土木）以外の知識を得ることができ、より深く下水道技術のことを知ることができました。

ストックマネジメントは、最近増加している業務で今後も数が増えると思われるので、早くに携わることができてよかったと思いました。

## 3. 会社に勤める中で最も大切なもの

会社に入社して3年目に入りましたが、改めて現在の部署に所属できて良かったと心から思っています。

理由は、いくつかあるのですが一番思っていることは人間関係を構築しやすく、親しみやすい方が多いことです。



写真-1 チーム写真（後列右から3番目が筆者）

上司や他の部署の方、同僚までいい人が多く雰囲気が良かったのです。

仕事を続けていく中で、大事なものは、自分に合った仕事だとか、給料だとか、残業がないだとか、考える方がいると思います。

それらは間違っているとは思いませんが私は、会社の雰囲気、人間関係が一番大事だと思っています。

現に、離職理由で一番多いのは人間関係と聞きますし、周りの人の話を聞いても仕事内容が嫌というよりも、上司の愚痴や同期とのいさかいなどの話の方をよく耳にします。

相談したいのに相談ができない雰囲気、話を聞いてくれない上司、息抜きが一緒にできない同僚等と一緒に働いていても息が詰まるだけです。

人間関係が悪くない環境を作ることが大切であり、人間関係をよくするためには、多くの人と関わるのが大事です。

人と関われば、その人と話すことが容易になり、仕事のことなどを聞きやすくなり、仕事が楽になります。

また、話すことができる人ができればストレスをためず、会社がより過ごしやすいものになります。

現在の仕事は、どうしても一人ではできないものなので、多くの人との良好な関係を作り、仕事を苦のないものにしていくと長続きし、楽しいと思うことができます。

## 4. おわりに

私は、入社する前まで、この業界に興味があったわけではありません。

ほとんど無知であったといっても過言ではありません。

学生を含め多くの方は、コンサルタントという職業については、その内容を知らないと思います。

ましてや、水コンサルタントはなおさら知られていないと思います。

ただ、知られていないだけで、私は日々の生活に大きく絡んでいる大切な仕事であると感じています。

この業界は、時代とともに変わっていく課題があり、奥が深い業種であるため、試行錯誤しながら進む業務が多く、辛いこともあります。

ですが、私は一人の技術者として自分の仕事を誇りに思い、やりがいもあり、楽しい仕事であると感じています。